彙報

二〇〇四年一月より
二〇〇四年十二月まで

班研究

東方學研究部

中國美術の圖像學　班長　曾布川　寛

古代、中世の美術において表現されたものは全て象徴的意味内容を有しており、それが何を表しているかを知ることなしに作品の理解はあり得ない。作品の背景には神話傳説、宗教的義軌、社會的情況などがあり、それらを踏まえて理解することが要求される。我々は中國の古代、中世美術を取り上げるに當たり、圖像學の見地から考察を試みる。主たる對象は考古學的出土文物と、石窟寺院などの佛教美術であり、中國のみならず、インド、朝鮮、日本を含めて考察する。班員及びゲストスピーカーによる研究發表は、以下の通りである。なお、中國社會科學院考古研究所の朱巖石氏、臺灣中央研究院歴史語言研究所の顔娟英氏を招待し、下記の如く講演會を開催した。

一月二六日　山西省平順縣大雲院彌陀殿壁畫について　大原　嘉豊
二月一七日　「磁縣灣灣漳北朝壁畫墓の發掘」（講演）朱　巖石
二月二三日　（傳）董源「寒林重汀圖」の觀察と基礎的考察　竹浪　遠
二月二八日　「北魏佛教造像と信仰の閒—傳斯年圖書館所藏の四件拓本を中心に—」（講演）顔　娟英
五月一七日　北響堂山南洞の造營と唐邕刻經　謝　振發
五月三一日　趙孟頫「鵲華秋色圖卷」について　西尾　歩
六月一四日　中國圖像學の問題點—皇帝の所作—　曾布川　寛
六月二八日　墨拓本蘭亭圖卷をめぐって　鈴木　洋保
七月一二日　中國河北省正定市廣惠寺華塔藏唐代佛造像について　張　南南
一〇月一八日　眞景圖について　吳　泳三
一一月　一日　訪中調査報告　大足寶頂山石窟　緒方　知美
同前　安岳玄妙觀石窟　大原　嘉豊
一一月一五日　唐代の金銀器について　山中　理
一一月二九日　庾肩吾『書品』の時代背景について　小坂　恭子
一二月一三日　敎王護國寺藏傳眞言院兩界曼荼羅の再檢討—本格的研究のための基礎確立に向けて—　定金　計次

王玄策研究　班長　高田　時雄

王玄策は唐の太宗から高宗の時代にかけて、數度にわたり正使あるいは副使としてインドに赴き、中印文化交流史に足跡を殘した。その著とされる『中天竺國行記』は現在では散佚して、『法苑珠林』『諸經要集』『釋迦方誌』などに斷片的な記載が見られるのみである。本研究班では、王玄策の使節に關する文獻資料を集成し、讀み解くことによって、當時の中國からインドにわたる地域の歴史・宗教・言語・文化などの情報を引き出すことを目的とする。本年は、關連資料の會讀をほぼ終え、報告書の作成に向けて、テキスト校訂・譯注整理等の作業を開始した。隔週の月曜日に漢字情報研究センター會議室で開催。

漢字情報學の構築　班長　安岡　孝一

本研究班の主眼は、漢字テキストをコンピュータというマナイタの上に載せて、何とかテキスト處理できるようにしよう、というものである。研究の對象としては、文字コード、組版、フォント、OCR、WWW、形態素解析、など多くの要素技術が考えられるが、本年度はとりあえず組版技術に絞って議論をおこなった。なお、本研究班では、參加者全員が文獻や書籍を見ながら論じ合うというスタイルを取っているため、特定の發表者

等は記さないことにする。

四月二〇日　「テキスト情報階層モデル」
五月一八日　「出版工作手册」
「組版原論」
印刷圖書館
組版の參考文獻
日本語の文字と組版を考える會
六月　一日　「ページネーションのための基本マニュアル」
「傳書活版技術」
「活字排版工藝」
中國語における「ルビ」について
六月一五日　「日本語發掘圖鑑」
「基本日本語文字組版」
漢文の訓點文の組版
七月　六日　日本語組版の小まとめ
井上嘉瑞の「ローマ字印刷研究」
九月二一日　「新編出版印刷技術」
一〇月一九日　戸籍統一文字からOTFを作る
一一月　二日　JIS X 4052 日本語文書の組版指定交換形式
Ruby Annotation
テキスト檢索は文字列檢索でも木檢索でもない
一一月一六日　ルビ付きテキストのマークアップ
JIS X 4051 日本語文書の組版方法
縦ゐき
版本CGI
一二月　七日　JIS X 4051の理解を深める

マークアップ——理論と實踐

班長　C. Wittern

研究者にとっての電子テクストは、これまで印刷物の形を取ってきたテクストを、單に電子化したというだけのものではない。電子テクストは、研究者間の新たなテクスト傳達の手段であると同時に、テクストに關する解釋をも傳達する可能性を秘めている。本研究班の目的は、マークアップという方法論によって開かれる、新たな電子テクストの可能性についての基礎研究である。本研究班では、これを特に漢字文化圏のテクストを中心におこなう。

四月に發足して以來、マークアップ・テキストの理論についていくつかの側面から考え、實踐の基礎となるマークアップのありかたに關する議論が展開された。

秋以降、班員諸氏が關わっているプロジェクトからの報告を受け、實際例を目の前にして、マークアップはどう行う、テクストのフィーチャはどう反映させている、などの問題を檢討し續けている。

第二・四火曜日に漢字情報研究センター會議室で開催しているが、研究班の活動と成果はウェブのhttp://chw.zinbun.kyoto-u.ac.jp/markupで公開。

中國文明の形成研究

班長　小南　一郎

本研究班も、五年計畫の最終年度を迎えた。本年度の前半時期には、班員による研究報告がなされ、それらをまとめて、年度末までに報告書を出版すべく、編集作業を急いでいる。年度の後半には、王國維「觀堂集林」の會讀が繼續され、藝林のうち、尚書から爾雅まで、經書に關わる部分のほぼ全部を、五年間で讀み終わったことになる。王國維の中國古代文化研究の方法をどのように繼承してゆくのかは、班員各自の今後の具體的な研究活動の中に示されることになるだろう。

本年度に行なわれた研究報告を列擧すれば、次のようである。

一月二〇日　納言小考　藤井　律之
張家山漢簡・史律について　西川　利文
二月一七日　中國における淫祀　佐野　誠子
郭店楚簡「太一生水」について　仲畑　信
四月二〇日　東漢における禮學と法制——『律令の經典化』の實情をめぐって　東川　祥丈
漢唐の封禪說　麥谷　邦夫
五月一八日　周代の身分制度　岡村　秀典
七月　六日　西周王朝の成周經營　小南　一郎
正始石經のもくろみと敗因

九月二一日　周禮の古今字について　木島　史雄
論語鄭玄注をめぐって　森賀　一惠
一〇月一九日　周公廟遺址踏査報告　村田　浩
一一月　二日　新干の青銅器と玉器　秦　小麗
一一月三〇日　臺灣考古學の現狀と展望　彭　適凡（江西文物考古研究所）
陳　玉美（中央研究院史語所）

中國の生活空間と造形　班長　田中　淡

中國の傳統的な生活空間とそれに直截的に關わる造形、すなわち具體的には住まい、宮殿、庭園、あるいは家具配置、室内空間、儀禮等々の諸相をとおして、その特質を探る。時代・地方を限定せず、また建築空間に限らず、精神空間を對象に含め、中國學の他の分野および東アジア、周邊地域の專門家の參加を得て、二〇〇三年四月から二年間の試驗的研究として發足した。研究發表と並行して、前年より引き續き、明・方以智『通雅』宮室の會讀を進めている。標記の期間に行われた研究發表・會讀等は左記の通り。

二月一七日　『通雅』卷三八　宮室　福田　美穗
二月二四日　隋唐長安城と日本の都城の比較研究　王　維坤
四月二七日　黃檗山萬福寺松隱堂修理現場參觀　神泉苑は寢殿造か　細谷　豪
五月一一日　『通雅』卷三八　宮室・適室　毛利　英介
五月二五日　『通雅』卷三八　宮室・適室　武田　時昌
六月　八日　『通雅』卷三八　宮室・待漏院　高井たかね
六月二二日　首里城と聖地　伊從　勉
七月一三日　日本民家集落博物館參觀　谷井　陽子
九月二六日　中國初期佛閑伽藍に關する再考察　黃　蘭翔
一〇月一二日　『通雅』卷三八　宮室・左个、雝和　高井たかね
一〇月二六日　蘭嶼Tao的空間觀念（House as Society）　陳　玉美
一一月　九日　國寶法隆寺傳法堂修理工事現場參觀　Buddhist ritual space:
一一月三〇日　1, Thunder Sound Cave 房山雲居寺雷音洞
2, Rock carvings at Hongdingshan 東平洪頂山摩崖
ロータール・レダローゼ

元代の社會と文化　班長　金　文京

『事林廣記』と『元刊雜劇三十種』の讀解、譯注作成を並行しておこない、三年間の研究班を終了させた。本年の擔當は以下のとおりである。なお『事林廣記』學校類（上）の譯注を『東方學報』第七十六册に發表した。『事林廣記』の講讀は次の研究班において繼續し、元曲については成果を別途に發表する豫定である。

一月二〇日　『事林廣記』「方國類・方國雜誌（續）」　毛利　英介
二月　三日　『事林廣記』「花果類」（前集卷十三）　森村　謙一
二月一七日　同上「方國類・異邦習俗」　谷井　陽子
二月二一日　元曲「三奪槊」四折前半　井上　泰山
三月一五日　元曲「三奪槊」四折後半　金　文京

中國近世日用類書の研究　班長　金　文京

本研究班は、前記の『元代の社會と文化』に引き續き『事林廣記』の講讀、譯注作成を行うが、特にその中の科學技術關係の記事に重點を置き、また明代の『萬寶全書』など『事林廣記』以降の日用類書をも視野に入れて研究を行う。本年の擔當は以下のとおりである。

五月二五日　講演「明清代の日用類書について」　坂出　祥伸
六月　八日　『事林廣記』「曆候類」曆法本源・律呂生配　新井　晉司
七月一三日　「曆候類」律度量衡・氣候本始置閏法　武田　時昌
宮島　一彥
一〇月一二日　「曆候類」刻漏器度　新井　晉司
一二月一四日　「曆候類」歷候名數・四時占候

中國近世法制資料の研究　　班長　岩井　茂樹　　山崎　岳

二〇〇三年度に發足したこの研究班では、徽州文書中の明代裁判關係文書を中心とする法制資料を會讀しながら、紛爭解決の過程についての知識を獲得し、研究方法を模索することを目指した。中國社會科學院歷史研究所の阿風氏の協力によって、現在利用できる明代裁判關係文書のほとんどの電子テキストが提供されたので、岩井がこれを利用して全文檢索システムを作り、ウェブ上で班員に公開した。このシステムを作るにさいして、文書の類型にもとづく分類と、朝代による年代の情報を付與した。單純なことであるが、同じ類型の文書を通覽することによって、その性格を明瞭に把握することができるようになる。一例を擧げれば、これまでしばしば「批文」の一種であると見なされていたもののなかに、文書作成を起案する樣式の文書があることが分かった。この樣式の文書は、「立案」と呼ぶべきものであろう。こうしたことは、地方の官府で作成された生の資料に觸れなければ理解することが難しい。この共同研究の研究期間は一年間と短いものであったが、多くの發見をもたらしたという點で、きわめて有益であったと自負している。研究班終了後も、阿風氏の作業を土臺として校訂をおこない、その成果を公表する豫定である。本年一月〜三月に會讀した文書、および研究發表を左に掲げる。

直隸徽州府爲祁門縣縣民謝玉澄狀告謝道本等人強占山土印阻木植等事帖文（その四）

「萬曆十年謝氏告爭火佃莊基狀底籍」　（加藤雄三）

「天啓二年十一月休寧縣正堂信牌」　（小野達哉）

「天啓六年九月休寧縣信票」　（小野達哉）

「天啓六年陳大保因盜伐樹木立甘罰戒約」　（小野達哉）

「崇禎四年黃記秋等立爭執息訟清業合同」　（岩井茂樹）

「崇禎六年休寧吳汝選等爲占產漏稅懇懲超纍事呈文」　（岩井茂樹）

『元典章』に載る「大元ウルス高官任命命令文」　（堤　一昭）

元代の法制　　班長　岩井　茂樹

本年度から發足したこの研究班は、元朝時代の行政文書・法制文書の會讀をつうじて、その時代の制度と社會について知見をひろめることを目的としている。參加者それぞれが、會讀の作業のなかから研究すべき課題を見いだし、この時代の制度と社會の特質を理解する足がかりを得ることを期待している。とくに、前後の時代との連續と斷絶という問題について洞察を深めたい。會讀する資料として選擇したのは『大元聖政國朝典章』禮部の部分（典章二八〜三三）である。左に、會讀した箇所と擔當者を掲げる。

朝賀　金文京　進表　岩井茂樹　迎送　船田善之　服色　加藤雄三・藤本猛　印章・牌面　山崎岳　牌面・誥命　植松正　婚禮　森田憲司　喪禮　古松崇志

三教交涉の研究　　班長　麥谷　邦夫

本研究班は、中國中世における儒佛道三教間のかかはりをさまざまな角度から研究することを目的に、二〇〇〇年度から五年間の豫定で組織された。本年度は最終年度に當たるので、昨年度後半に引き續いて研究發表を中心に行い、それ以外は『茅山志』の解讀を行った。研究發表の細目は以下のとおりである。

一月二一日　佛教の聖者觀をめぐる二つの傳統　船山　徹

二月　四日　北朝人士の道佛觀—『劉子』に見られる劉晝の思想的立場　龜田　勝見

韓愈「排佛」の周圍　古勝　隆一

二月一八日　趙宜眞初探　畑　忍

臺南市における道教功德儀禮の調査報告　山田　明廣

四月二一日　『五老寶經』と『太丹隱書』　垣內　智之

南宋における儒佛合一思想と出版—王日休「龍舒淨土文」と「速成法」を例として　金　文京

五月一二日　敦煌の孝子傳　小南　一郎

道教に於ける夷狄・外道　山田　俊

五月二六日　蘇東坡の信仰　宇佐美文理

唐代の內丹思想—『龍虎九仙

經』と『太白還丹篇』を例として　坂内　榮夫
六月　九日　清代道教と密教―龍門西竺心宗　エスポジト
異常出生と三教交渉　佐野　誠子
六月二三日　内丹劇初探―蘭茂『性天風月通玄記』　秋岡　英行
異端墨子と韓愈の排佛論について―『全唐文』より　藤井　京美
七月　七日　道教における「本然の性」と「氣質の性」―二つの性と神をめぐって　横手　裕
成玄英の「道」　孫　路易
一一月二四日　外丹・瞑想・内丹の起源　プレガディオ

三國時代の出土文字資料　班長　井波　陵一、冨谷　至

最終年度に當たる今年度は、當初の目的であった本研究所所藏の魏晉時代文字拓本の會讀の成果を『魏晉石刻資料選注』としてまとめ、年度内の完成にむけて作業をすすめているところである。

その作業と並行して、前年に引き續いて張家山漢簡・二年律令を會讀した。難解な部分が增え、その解釋をめぐって活發な議論がかわされた。時には一度の研究班で一本も讀み終えることができなかったときもあったが、三分の一近くを讀了、その成果として譯注を東方學報に公表した。

また一二月一七日には、高村武幸氏（日本學術振興會特別研究員）に、湖南省龍山縣より出土した里耶秦簡に關して講演していただいた。里耶秦簡は記載年代が二年律令と極めて近いこともあり、本研究班での會讀をすすめる上で、裨益するところが大きかった。加えて、從來蓄積されてきた簡牘研究における通說にも再檢討を促すなど、非常に刺激的な講演であった。記して謝意を表したい。

なお、當研究班で會讀している拓本は、本研究所附屬漢字情報研究センターＨＰにおいて公開されている。

＊石刻拓本資料　http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/

二〇世紀中國の社會システム　班長　森　時彦

本研究班は、清末から現在にいたる一〇〇年間の社會システムの變動を多樣な側面から總合的に檢討することを目的として、昨年四月から五年計畫でスタートし、本年が二年目となる。本年も昨年と同樣に一九世紀末から二〇世紀前半を中心とする各分野の報告が行われた。全體としては、對象年代が二〇世紀後半に廣がったほか、教育史、外交史、地域史など近年研究が手薄となっている分野についての若手による意欲的な報告が際だった一年であった。

本年の報告は左記のとおりである。

二月　六日　蔣介石はなぜ對日抗戰を決意したのか？　江田　憲治
二月二〇日　中華民國における一九二九年恐慌からの脫出―ケインズからの贈り物　中村　哲夫
四月二三日　清末立憲期の科舉・學堂論―一九〇七～一一年の科舉復活論と生員補考・舉貢會考を中心に　早川　敦
五月　七日　中國近代學校教育における「讀經」問題について　宮原　佳昭
五月二一日　中國農村の基層空間にとっての二〇世紀　小島　泰雄
六月　四日　北京政變（一八八四年）後における清朝中央の外交政策決定過程　大坪　慶之
六月一八日　一九世紀～二〇世紀初、湖南省西部の地域社會について―屯田・綠營・非漢族をめぐって　梶原　眞
九月二四日　一九世紀末、閩南商人の轉換―廈門におけるアヘン課稅問題を中心に　村上　衛
一〇月一五日　陳公博の初期思想　中國共產黨離黨と國民黨左派グループ加入をめぐって　柴田　哲雄
一〇月二九日　一九三〇～四〇年代内モンゴルにおける「復興」の位相―チンギス・ハン顯彰運動を中心に　田中　剛

一一月一九日　胡適の『說儒』とその周邊　緒形　康

一二月　三日　アメリカ國內での義和團賠償金留學政策への對應—中國人アメリカ留學生團體の確立時期（一九一一年前後）を中心に　龜島　さち

中國古代の基礎史料　班長　淺原　達郎

二〇〇四年四月から新たに發足した研究班であり、中國古代、なかでも先秦時代の研究を志す學生のために、基礎的な學力を磨く場を提供する。今年度は裘錫圭氏の論文四篇を讀んだ。すなわち「閱讀古籍要重視考古資料」（四月一六日～五月二八日）、「斗卮和題湊」（六月四日～六月一一日）、「考古發現的秦漢文字資料對校讀古籍的重要性」（六月二五日～一二月三日）、「簡帛古籍的用字方法是校讀傳世先秦秦漢古籍的重要根據」（一二月一〇日）である。「閱讀古籍……」と「斗卮和題湊」については、その讀書記錄を『曰古』第一號（六月一八日）に掲載し、「考古發現的……」の讀書記錄は『曰古』第三號（二〇〇五年一月）にて公表する豫定である。なお『曰古』は當研究班の成果を公表するための簡略な册子であり、不定期に刊行する。その第二號（九月二四日）には、淺原の「漢初の曆法」を採錄した。

漢字情報基礎論の試み　班長　武田　時昌

本研究會は、パソコンの普及、書物の電子テキスト化やインターネットによる交信といった情報の形態的變容が急速に進む時代狀況に卽應して、中國學研究の學問的環境を新たに整備するために、漢字情報のあり方や諸問題について中國學と情報學の雙方の專門的な立場から三年閒にわたって檢討を加えてきた。每回の研究發表は文獻學と情報學の境界領域における最前線の話題滿載であり、目新しく、刺激的であった。もっとも、新たに發足した漢字情報研究センターの情報學者の研究紹介が中心であり、班長の力量不足もあって、より議論を深め、漢字情報學の第一步を踏み出したというには程遠かったように思う。しかしながら、彼らの研究を核として、高田時雄氏を研究リーダーとする二十一世紀ＣＯＥプロジェクト「東アジア世界の人文情報學研究敎育據點」が構想され、見事に採擇されるに至ったから、少しは貢獻できたところがあったかもしれない。今春からは、本研究班を發展的に繼承して、安岡・ウイッテルン兩氏が所外の研究者を集めた本格的な共同研究會をそれぞれ立ち上げたので、本研究班が目指した漢字情報學の確立に向けて、今後のさらなる飛躍を期したい。なお、二〇〇四年の研究活動としては、一月三〇日にSynergy Incubate社の內藤求氏を特別講師として招き、「トピックマップとは」と題する研究發表會を開催した。なお、二〇〇二年一一月一日に守岡知彥氏が行った研究發表のテーマは、「文字知識に基づく文書編集環境の開發—Character Information Service Environment Project—」であったので、ここに訂正しておきたい。

陰陽五行のサイエンス　班長　武田　時昌

陰陽五行說は、物類や自然現象の法則性や相互關係を說明する原理として大いに用いられた學說であり、中國の諸分野において獨自の理論構造を生み出すパラダイム的な役割を果たした。これまでの研究においては、陰陽五行說の成立過程や配當說、それを援用した漢代の政治思想等に詳しい考察が試みられてきた。しかしながら、三國時代以降の史的展開や理論構造の特質については、十分な檢討がなされているわけではないように思われる。そこで、自然學に限らず思想、宗敎から文學、諸技藝に至る多彩な分野において、天人感應、物類相感等を含めた陰陽五行の說明原理が、實際にどのように活用されているのかを分析し、包括的、複眼的な見地からその構造と特色あるいは限界性を考究したいと考えている。會讀のテキストには、『五行大義』『醫心方』を取り上げた。というもの、兩書には多數の佚書を含む典籍が集錄されており、術數學や醫學における陰陽五行說の中世的展開を槪觀することができるとともに、參加者の專門分野での陰陽五行說の樣相を探る手がかりが得られるように思われたからである。なお、研究發表や陰陽五行關連の新資料、新研究の紹介も、隨時行うことにしている。

五月一五日　『五行大義』卷一、釋五行名　佐藤　實

『醫心方』卷一、治病大體第一　森泉　和人

五月二九日　『五行大義』序　武田　時昌

六月一二日　『醫心方』巻一、治病大體第一　森泉　和人
七月一〇日　『醫心方』巻一、治病大體第一　森泉　和人
一〇月　二日　『五行大義』巻一、釋五行　佐藤　實
一〇月二三日　『醫心方』巻一、治病大體第一　森泉　和人
書評：山田慶兒論文『日本醫學事始　豫告の書としての「醫心方」』　武田　時昌
一〇月三〇日　『五行大義』巻一、釋五行　佐藤　實
資料紹介：『郭店楚簡』五行　武田　時昌
一一月一三日　『醫心方』巻一　櫻井　謙介・武田　時昌
一二月　四日　『五行大義』巻一、辨體性　伊藤　圓
一二月一八日　研究發表：「明堂圖と孔穴」　長野　仁

人文學研究部

日佛文化交渉の研究　班長　宇佐美　齊

二〇〇二年四月から四年間の豫定で實施されている共同研究である。日本人にとってのフランス文化、フランス人にとっての日本文化、このふたつを問うことから始めて、具體的なヒトとモノの交流を重視しながら考察をすすめている。そのうえで日佛兩文化の相互的な交渉がもたらした豊かな創造性とその問題點とを浮き彫りにするのが主なねらいである。時代區分としては、フランスでいえば第二帝政と第三共和政の時代、日本でいえば幕末維新期から昭和十年代あたりまでを想定している。フランスの文學や諸藝術を對象とする研究者のみならず、日歐比較美術史、日本文化史、比較文明史などを專門とする研究者にも加わっていただいている。また正規の班員としてではないが、必要に應じて海外からも複數の研究者の協力を得ている。二〇〇四年四月からは、成果報告書の作成にむけて最終的な口頭發表と討議を重ねている。

班員　大浦康介　岡田曉生　髙木博志　高階繪里加　森本淳生　横山俊夫（以上所内）　吉田城（文學研究科）　松島征（總合人間學部）　柏木隆雄　北村卓　内藤高（以上大阪大）　小山俊輔　三野博司（以上奈良女子大）　柏木加代子（京都市藝大）　小西嘉幸（大阪市大）　丹治恒次郎（關學大名譽教授）　ピエール・ドゥヴォー（甲南女大）　アンヌ・ゴノン（同志社大）　ジャック・ジョリー（英知大）　近藤秀樹（大阪教育大・非常勤講師）　阪村圭英子（京都市藝大・非常勤講師）　鵜飼敦子（京都大人間環境學研究科博士後期課程）　袴田麻祐子（大阪大文學研究科博士後期過程）　佐野仁美（神戸大總合人間科學研究科博士後期過程）　［海外協力者］：イヴ＝マリ・アリュー（トゥールーズ・ルミライユ大學）　セシル・サカイ（パリ第七大學）

一月一〇日　マルローにおける東洋と日本　三野　博司
二月一六日　國際社會と古都奈良　髙木　博志
四月二六日　井上哲次郎と一八九七年パリ萬國東洋學會　ジャック・ジョリー
戰前日本におけるフランス印象派音樂の作曲的受容　佐野　仁美
五月一〇日　フランス詩の磁場―富永太郎の「フランス詩ノート」と中原中也の「翻譯詩ノート」を中心に―　宇佐美　齊
五月二四日　竹内勝太郎のヴァレリー　森本　淳生
六月　七日　山本芳翠『蜻蛉集』挿繪に關する考察　髙階繪里加
七月　五日　L'autre pensee（他者の思考）　フランシス・マルマンド（ゲスト）
マルセル・プルーストの時代と日本の園藝植物の影響關係について　阪村圭英子
九月一八日　「日本」を書く　ピエール・ロティ『お菊さん』の位置　大浦　康介
〈水の風景〉を通して日佛の交流を考える　内藤　高

一〇月一六日　反語的精神の共振―林達夫とジャンケレヴィッチ―　近藤　秀樹
九鬼周造の日本文化論とフランス　小山　俊輔
一〇月二五日　マルロー『人間の條件』と日本　三野　博司
日本人にとってシャンソンとは何か―シャンソン受容史試論　松島　征
一一月二二日　木下杢太郎とフランス文化　吉田　城
巖野泡鳴とボードレール　北村　卓
一二月一八日　フロベールと日本趣味　柏木加代子
洋學の系譜とフランス人による幕末日本のイメージ　柏木　隆雄

フェティシズム研究の射程　班長　田中　雅一

本研究會はフェティシズムあるいはフェティッシュをキーワードに文化横斷的かつ領域横斷的に、人ともの、社會とものについての議論を展開してきた。理論的な關心から言えば信念のみで論じられているかに見えるagency論をなんとか克服していきたいと考えている。その意味でフェティッシュ論はなお、これまでの研究成果である主體や自己についての議論を繼承している。考えられるアプローチは宗教學、經濟學、歴史學、精神分析、性科學、フェミニズム研究、物質文化論など多岐にわたる。最終年度になって、ミニシンポを開くかたちでようやく藝術にたどり着くことができた。

班員　大浦康介　菊地曉　小牧幸代　髙木博志　竹澤泰子　田中祐理子　田邊明生（以上所内）　足立明（アジア・アフリカ地域研究研究科）　速水洋子（東南アジア研究所）　松田素二（文學研究科）　宇城輝人（福井縣立大）　岡田浩樹　細谷廣美（以上神戸大學）　春日直樹（大阪大學）　窪田幸子（廣島大學）　齋藤光（京都精華大學）　佐伯順子（同志社大學）　佐藤知久（京都文教大）　田村公江（龍谷大學）　中谷文美（岡山大學）　箭内匡（天理大學）　岩谷彩子（學振特別研究員）　金谷美和（日文研研修員）　川村清志（大阪外大非常勤）　中谷純江（民博研修員）　藤本純子（大阪大學大學院文學研究科）　小池郁子　宮西香穂里　李雯文（以上京都大學大學院人間・環境學研究科）

一月一九日　平和のフェティシズム考：文化的フェティシズム批判を超えて　松田　素二
二月　二日　「賣ったり買ったり」と「あげたりもらったり」のあいだ：フランスのあるSEL（地域交換システム）における交換　中川　理（學振特別研究員）
交換システムの解釋學：スペイン・カタルーニャの場合　織田　龍也（民博共同研究員）
二月二三日　繪畫者とはだれか？　中村　宏（畫家）
三月　一日　偶像、イコン、もの：現代キリスト教神學に見るものへの裏口　佐藤　啓介（京都大學文學研究科）
三月一五日　内在權力の建築（Architecture of Immanent Power）　内山田　康（筑波大學）
五月三一日　打ち合わせ
七月一〇日　シンポジウム「複製技術時代の文化人類學」
剝製技術から複製技術へ　田中　雅一
複製技術の原初形態としてのトーテム　慶田　勝彦（熊本大學）
增殖する佛陀　韓國佛教における物質化と複製、そしてポップカルチャー　岡田　浩樹
複製技術と禮拜價値　南インドにおける『映畫館で映畫を觀る』ということ　桑原　知子（九州大學）
コメンテータ　箭内　匡、杉本　良男（國立民族學博物館）

一〇月　四日　打ち合わせ
一二月　六日　生きている自然と地域經濟の關係に關するアダムスミスの言説　コーリン・ダンカン（カナダ・マギル大學）
微視的歴史、資源利用、そして地域經濟　ルース・サンドウエル（トロント大學オンタリオ教育研究所）

空間の再審―人文・社會科學の新機軸を求めて―　班長　山室　信一

空間とは、時間とともに人間が自己と他者について認知していくための不可缺の枠組みであり、人間とその社會のあり方を追求すべき人文・社會科學においては、明確な概念規定に基づく體系化が要請されている。しかしながら、歐米近代の人文・社會諸科學においては、時間こそが基軸となっており、空間そのものを對象として捉えることに必ずしも成果を擧げてきたわけではない。しかも、グローバリゼーションの進行の中で空間の把握は時間や速度によって置き換えられつつある。しかし、グローバ化によって生活様式の平準化が進めば進むほど、氣候や生態などの地理的條件、都市や建築などの空間形式の差異のあり方こそが、人間觀・社會觀そして世界認識のあり方をますます規定していくこと可能性も否定できない。この共同研究では、自然環境と人間活動の關係や、生活空間としての都市・建築などの形成の仕方、そしてさらにそれが世界認識としていかに把握されてきたか、といった學知と實踐知そのものを再審に付し、そこから新たな人文・社會科學の基軸を析出していくことをめざしている。

班員　菊地曉　坂本優一郎　藤原辰史　谷川穣（以上所内）　早瀬晉三（大阪市大）　中島岳志（學術振興會特別研究員）

四月一九日　はじめに―空間を對象化する意義をめぐって　山室　信一
五月一七日　『地圖が作ったタイ』　早瀬　晉三
六月　七日　『環境と人間の歴史』　藤原　辰史
七月　五日　『ポストモダン地理學』　菊地　曉
一〇月　四日　共同研究の課題とその達成方途　全員
一〇月一八日　フーコーの空間論　山室　信一
一一月　一日　内村鑑三『地理學考』を讀む　谷川　穣
一一月一三日～一五日　所外調査
一二月一三日　地域研究の論理と京都學派の哲學　中島　嶽志
一二月二〇日　所外調査

國家形成の比較研究　班長　前川　和也

この研究班は、人類史のなかでのもっとも重要な營みのひとつである國家形成の諸問題をあつかっている。班員が專門とする地域は東アジア（日本、中國、韓國）、西アジア、インド・イラン、南米アンデス、西ヨーロッパ、オセアニア地域におよび、また班員の專門領域は考古學、人類學、歴史學、言語學、文學の諸分野にわたっている。二〇〇四年四月で、研究班は最終年度にはいった。四月から七月まで班員總括報告が行われ、秋には報告書『國家形成の比較研究』のための原稿もでそろい、二〇〇五年春の報告書公刊を目指している。

班員　井狩彌介　小南一郎　岡村秀典　田邊明生　藤井正人　藤井律之（以上所内）　伊藤惇史　吉井秀夫（以上文學研究科）　石村智　下垣仁志　橋本英將（以上京都大・文・DC）　宇野隆夫（國際日本文化研究センター）　角谷英則（津山工專）　河野一隆（國立九州博物館準備室）　桑原久男（天理大・文）　關雄二（國立民俗學博物館）　寺前直人（大阪大・文）　中谷正和（總合研究大學院大・文化科學DC）　西江清高（南山大・人文）　菱田哲郎　渡邊信一郎（以上京都府大・文）　深澤芳樹（奈良文化財研究所）　福永伸哉　堂山英次郎（以上大阪大・文）　松木武彦（岡山大・文）　森下章司（大手前大・文）

一月一三日　王權と圖像文様　森下　章司
一月二七日　「ポリスの創造」再考　近年の初期ギリシア史研究の成果から　周藤　芳幸（名古屋大）
二月二四日　考古學と近現代史　穴澤　鋤光（穴澤病院）
三月　九日　古墳文化の中心―周縁關係成立過程　河野　一隆

四月二七日　戰爭と首長制・古代國家　松木　武彦
前方後圓墳秩序と「日本型」國家形成　福永　伸哉
中央アンデス初期國家の權力基盤　形成期社會とモチェの比較を通して　關　雄二
スウェーデンにおける初期王權と國家　角谷　英則
五月一一日　ヴェーダ期に國家はあったか　藤井　正人
古代イランにおける社會組織の再編成　堂山　英次郎
百姓の成立　中國における國家の形成によせて　渡邊信一郎
五月二五日　馬韓から百濟へ　吉井　秀夫
殷周時代における畜産の國家的儀禮　岡村　秀典
集團勞働體制からみたシュメール都市國家の成立　前川　和也
六月　八日　適應としてのラピタ人の擴散過程　石村　智
倭王權の形成と文物・祭式の流通　下垣　仁志
北朝皇帝の行幸再考　藤井　律之
六月二二日　器物の生産・授受・保有形態と王權　森下　章司
境界の誕生　河野　一隆
日本列島の國家形成と宗教政策　菱田　哲郎
七月一三日　國家形成前夜の遺跡動態　伊藤　惇史
南レヴァントにおける都市の形成と展開　桑原　久男
「地域」間關係の變化からみた中國中原王朝の成立過程　西江　清高
九月二八日　報告書作成・最終討論　全員

身體の近代

「身體」を手がかりに異分野間コミュニケーションを少しでも風通しの良いものにすること、そして、そのことを通じて近年急速にリアリティを失いつつある「學問」なる營爲を少しでも風通しの良いものにすることが、本研究班の野望である。

本年度は、班員による全學共通教育課目のリレー講義を開催、學生とのコミュニケーションを媒介として、身體をめぐる概念や方法の分野間における齟齬を對象化することを試みた。

班員　大浦康介　岡田曉生　加藤和人　倉島哲　小牧幸代　坂本優一郎　佐野誠子　高井たかね　高階繪里加　竹澤泰子　田中祐理子　谷川穣　藤原辰史　守岡知彦　森本淳生　（以上所内）

一月一四日　規律訓練・身體・メディア　田中祐理子
一月一七日　超―身體論　内田　樹（ゲスト）
運動像と無意識：ヴァレリー『カイエ』における身體の問題　森本　淳生
＊「フランス文學における身體―その意識と表現―」研究會（代表者：吉田城）と共催
催眠と社會―一九世紀フランスにおける精神醫學の言説　北垣　徹（ゲスト）
三月二一日　現象學から見たベルクソンの身體論　小關　綾子（ゲスト）
四月一四日　身體をマッピングする　菊地　曉
四月二一日　生命科學の身體觀（生命觀）　加藤　和人
四月二八日　音樂／西洋音樂／身體／聽覺／表象　岡田　曉生
五月一二日　身體と人種　竹澤　泰子
五月一九日　ポルノ的身體とは何か　大浦　康介
五月二六日　日本近代美術における裸體表現の導入　高階繪里加
六月　二日　明治維新と天皇―王權と身體　髙木　博志
六月　九日　トラクターの歴史からみる勞働と身體　藤原　辰史
六月一六日　近代醫學の身體觀　田中祐理子

六月二三日　宗教と身體　小牧　幸代
六月三〇日　學校と身體と私　谷川　穣
七月　七日　情報と身體　守岡　知彦
七月一四日　死と身體　森本　淳生

領事館警察の研究　班長　水野　直樹

近代日本が朝鮮・中國との間に結んだ條約に規定された治外法權は、朝鮮と中國（東北地方＝滿洲を含む）に日本の領事館警察なるものを生み出した。朝鮮では一九〇五年の保護條約まで、中國東北地方では滿洲國における日本の治外法權が撤廢されるまで、中國では汪兆銘政權期に治外法權が撤廢されるまで、各地の日本領事館に外務省から警察官が派遣され、様々な活動を行なった。在留日本人（後には臺灣籍民・朝鮮人を含む）の保護・取り締まり、情報活動、相手國・歐米外交機關との折衝などである。

本研究は、近代日本と東アジアとの關係を考える上で重要な領事館警察の機構や活動、領事館警察が把握・認識した中國・臺灣・朝鮮の民族運動、共產主義運動、勞働運動などの動向等々を、日本史・朝鮮史・臺灣史・中國史の研究者による共同研究を通じて解明しようとするものである。また、中國・朝鮮側史料、歐米（特に英佛）諸國の史料などを利用して、中國・朝鮮政府の對應、中國人・朝鮮人の認識、歐米諸國の對應などについても檢討を加えたいと考えている。

班員　高木博志　石川禎浩　村上衛　李昇燁（以上所内）　李俊植（外國人研究員、延世大）　永井和（文學研究科）　淺野豐美（中京大）　梶居佳弘（立命館大・非常勤）　桂川光正（大阪產業大）　近藤正己（近畿大）　副島昭一（和歌山大）　宗田昌人（文學研究科・院）　田中隆一（學術振興會特別研究員）　廣岡淨進（大阪大・院）　藤永壯（大阪產業大）　松田利彦（國際日本文化研究センター）　李ジョンミン（中央大・非常勤）（海外協力者）　エリック・エッセルストロム（カリフォルニア大學サンタ・バーバラ校博士候補）　辛珠柏（ソウル大）　鄭根埴（ソウル大）

一月二一日　「在滿大使館警務部」設置問題　田中　隆一
二月二五日　海峽兩岸社會と臺灣總督府・對岸領事官警察　淺野　豐美
三月一七日　一九世紀末〜二〇世紀初の在朝日本人社會と領事館警察　木村　健二（ゲスト、下關市立大學）
四月二一日　領事館警察のいくつかの問題について　水野　直樹
五月一九日　閒島在住朝鮮人の裁判管轄權をめぐる中日兩國の攻防―『閒島協約』を中心に―　白　榮褒（ゲスト）
六月　二日　海外在留「日本國民」の居留禁止處分―「清國及朝鮮國在留日本人取締規則」および「清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法」を中心に―　李　昇燁
六月一六日　閒島における領事館／領事館警察と朝鮮人民會―一九二〇年代における救濟の發動―　廣岡　淨進
七月　七日　一九世紀末〜二〇世紀初朝鮮における日本人社會の形成と日本帝國主義―全羅北道群山の場合―　李　俊植
一〇月　六日　イギリスからみた日本の在中國領事館警察をめぐる問題―第一次大戰以降「年次報告書」を中心にしたごく簡單な紹介―　梶居　佳廣
一〇月二七日　上海共同租界警察ファイルについて　石川　禎浩
一一月一七日　『外務省警察史』を讀む―天津の部、その二―　永井　和
一二月　一日　『齋藤實關係文書』（書簡）に見る一九二〇年代朝鮮總督府の國境警備問題　松田　利彦

文明と言語　班長　横山　俊夫

人間社會が安定し、しかもそれが文をなし明らかなる狀態に赴くとき、言語が變容しつつはたす役割は大きい。その諸相を、さまざまな事例研究を通して明らかにするとともに、現代の專門細分化による言語の流通力の衰えが社會にもたらしている閉塞狀況に對して、その解決のための道を、班員の協同により模索、提言することをめざしている。

第三年度に入り、會場を地球環境學堂三才學林

に移し、班員それぞれの研究報告のほか、これまで輪讀をつづけてきた『難波鉦』の現代語譯出版の準備を始めた。一七世紀大坂の閉鎖安定空間の人間行動と言語模様の一端が明らかになるだろう。またこの班の研究成果を「ゲノムひろば」「京都文化會議」等の公開シンポジウムに參畫するかたちで活かした。

班員　宇佐美齊　岡田曉生　加藤和人　金　文京　倉島哲　古勝隆一　小林博行　武田時昌　田中祐理子　森本淳生　Susan B. Hanley　Kozo Yamamura（以上所內）　山極壽一（理學研究科）　遊磨正秀（生態學研究センター）（以上學內）　荒牧典俊（大谷大學）　遠藤彰（立命館大學）　後藤靜夫（京都市立藝術大學）　齋藤淸明（總合地球環境學研究所）　廣瀨千紗子（同志社女子大學）　深澤一幸（大阪大學）　細田明宏（日本民俗音樂研究所）　山岸敦（JT生命誌研究館）

一月二四日　日韓兩國の漢文訓讀について　金　文京

『難波鉦』梅之部六　朧月　加藤　和人

二月　七日　テスト氏とは誰か？　―ヴァレリーと近代文學の問題系―　森本　淳生

『難波鉦』梅之部六　道芝　山岸　敦

二月二一日　道元と親鸞の開いたもの―日本中世における「眞言」基層文化の超克―　荒牧　典俊

『難波鉦』梅之部六　亂碁　廣瀨千紗子

三月　五日　山本序周のことば直し　横山　俊夫

『難波鉦』梅之部六　藤袴　遠藤　彰

三月一二日　風呂屋・パノラマ館・芝居―「鄭考胥日記」の周邊―　深澤　一幸

『難波鉦』梅之部六　手鑑　古勝　隆一

四月一七日　「文明と言語」―第三年度を迎えて―　横山　俊夫

『難波鉦』梅之部六　身の代　金　文京

五月　一日　明治期の養生哲學と進化論―伊東　重の場合―　武田　時昌

『難波鉦』梅之部六　金精矢　深澤　一幸

五月一五日　科學コミュニケーションの今　加藤　和人

『難波鉦』梅之部六　熊谷笠　田中祐理子

五月二三日　尼崎言語力舊跡探訪（案內）後藤靜夫、木村立夫（尼崎市役所近松課）

六月　五日　ネゴシエーションとアナロジー―言語の發生と人類の進化―　山極　壽一

『難波鉦』梅之部六　雨路　横山　俊夫

六月一九日　野生の科學と近代科學―イヌイトの知識にみる時間の戰術―　大村　敬一（ゲスト）

八月　七日　「第三回　ゲノムひろば」（企畫司會）加藤、（出演）栗木京子、菅野純夫、藤山秋佐夫、横山俊夫

八月一九日　「第一回　鉦叩會」―『難波鉦』現代語譯稿作成―廣瀨、遠藤、横山他

一〇月二九～三〇日「京都文化會議二〇〇四―地球化時代のこころを求めて―」ワークショップ2〈こころの病理〉（企畫）川添信介、鹽田浩平、賴富本宏、横山俊夫、（ゲスト）伊東久重、奧乃博、鹽瀨隆之、朱捷、帚木蓬生、宮臺眞司、セップ・リンハルト、後藤靜夫、山極壽一、（司會）横山俊夫

一〇月　九日　武術の語り方　倉島　哲

『難波鉦』金精矢　譯稿　深澤　一幸

一〇月二三日　狩蜂をどう語るか　遠藤　彰

『難波鉦』雨路　譯稿　横山　俊夫

一一月二〇日　贋作について　宇佐美　齊
『難波鉦』熊谷笠　譯稿　田中祐理子
一一月二七日　分節言語から情念の音聲へ　岡田　曉生
『難波鉦』松之部一　初冠　倉島　哲
一二月二五日　山本序周の書禮指南　横山　俊夫
『難波鉦』初冠　續　倉島　哲

人種の表象と表現をめぐる學際的研究　班長　竹澤　泰子

この研究班は、社會や文化の諸側面で實在する人種の表象、またマイノリティによる自己の人種的アイデンティティや經驗の主體的あるいは戰略的表現、またそれらの社會的作用について共同研究を行っている。

具體的な研究テーマは、廣告や風刺畫、繪畫、寫眞などにみられるビジュアルな人種表象、社會言説やマスメディア、文學などのテクストから解讀できる人種表象、科學論文から醫療の現場に至るまでに散見されるさまざまな集團にかんする科學的言説、社會運動・政治運動、音樂・藝術活動などにみる主體的表現などである。なお研究成果は、學術出版書として出版する豫定である。

班員　石川禎浩　大浦康介　加藤和人　倉島哲　小關隆　小牧幸代　髙木博志　高階繪里加　田中雅一　田邊明生　藤原辰史（以上所内）　蘭信三（留學生センター）　片山一道（理學研究科）　松田素二（文學研究科）　石橋純（東京大）　井野瀬久美惠（甲南大）　川島浩平（武藏大）　北原惠（甲南大）　貴堂嘉之（一橋大）　栗本英世（大阪大）　黑川みどり（靜岡大）　齋藤成也（國立遺傳學研究所）　坂野徹（東京理科大・非）　坂元ひろ子（一橋大）　崎山政毅（立命館大）　スチュアート・ヘンリ（放送大）　冨山一郎（大阪大）　水谷智（神戸市外國語大・非）　渡邊公三（立命館大）

一月一〇日　生命科學研究の社會的・倫理的議論の今：クローン研究、ヒトゲノム多樣性研究などを例に　加藤　和人
生物學的に人種は定義されるのか：形態學からみた現生人類集團の變異・多樣性　埴原　恒彥（佐賀醫科大）
一月一一日　序論に追加すること　竹澤　泰子
コメンテーター：貴堂嘉之
フーコー「社會を防衛せよ！」　渡邊　公三
三月三一日　英領インド期のセンサスにおける「宗教」と「人種」　小牧　幸代
ナチズム・エコロジズム・レイシズム：ナチス農本主義と人種問題　藤原　辰史
四月一日　清末の〝排滿〟主義と中國人類學の興起　石川　禎浩
五月七日　中國殘留婦人の語りのなかの「日本人」：「日本人は優れている」という言説の意味をめぐって　蘭　信三
變異の存在「理由」と變異の一側面としての人種　溝口　優司（國立科學博物館）
五月八日　エイジアン・ブリティッシュの若者文化を巡る困難：實踐、定位、流通、消費　五十嵐泰三
交錯する人種と階級觀：英領インドにおける白人性の構築をめぐって　水谷　智
インドにおける人種と植民地的近代：民族、カースト、階級、ジェンダーとの交錯　田邊　明生
アメリカ映畫に見るエスニシティ表象の變遷：『王樣と私』を題材に　島　大吾（文學研究科・院）
九月一〇日　武術における身體の表象とその彼方　倉島　哲
人種の表象をめぐる代表的研究から―　Stewart Hall 著「Representation」Jan Nederveen Pieterse著「White on

Black: Images of Africa and Blacks in Western Popular Culture」および Richard Dyer 著「White」の書評　竹澤　泰子

九月一一日　轉位されるオリエンタリズム　井野瀬久美惠

大東亞共榮圏構想と人類學／民族學／民俗學—人類學の戰時動員をめぐって　坂野　徹

一〇月　八日　猿のようなパディ　小關　隆

つくりかえられる徵：戰後における被差別部落の表象　黑川みどり

一一月　五日　西洋美術における異邦人表現の傳統　高階繪里加

コメンテーター：大浦康介、北原惠

表情なきドイツ人：「血と土」の農民表象をめぐって　藤原　辰史

一一月　六日　繪畫から寫眞へ：非西洋諸民族表象における變化と無變化　落合　一泰（一橋大學）

國民の「源流」？：「メスティーソ神話」と大西洋岸クレオールの「歴史」の狹間からみる先住民　崎山　政毅

一九六〇年代の研究

班長　富永　茂樹

一九六〇年代は、われわれの生活と意識がそれまでのものから大きく變化した時代であった。しかもその變化は世界的な規模で生じたこと、また生活のさまざまな領域において認められること、さらに日本についていうなら、明治維新や第二次世界大戰後の變化を上回るものであるかもしれないことさえ豫想される、そのような變化である。自身がそのいくぶんかを生きた時代、また現在からほど遠くない時代について何ごとかを語り、結論を抽き出すのはけっして容易なことではない。だが一九六〇年代をつうじての世界の變貌が、今われわれのいる世界に直接につながっているかぎりにおいて、その腑分けを行うことはわれわれ自身を知るうえでぜひとも必要な作業でもある。この共同研究は、以上のような認識に立って、政治史や經濟史もさることながら、日常生活から學術や藝術にまでいたる多樣な側面での世界の變化に注目して、また一九四〇年代生まれの、いわば六〇年代を生きた世代から、七〇年代生まれの、つまりこの時代については語られた記憶しかもたない世代までが集まって進めることに努めたものである。そして本研究は二〇〇五年三月に終了を迎えるべく、目下そのまとめ、報告書の執筆に向けての報告・討論を進めつつある。

班員　籠谷直人　加藤和人　田中祐理子　藤原辰史　山室信一（以上所內）　伊從勉　大澤眞幸（以上人閒・環境學研究科）　加藤幹郎　大黑弘慈（以上總合人閒學部）　遠藤徹（同志社大）　葛山泰央（筑波大）　川崎博史（ホロニック）　北垣徹（西南學院大）　齋藤光（京都精華大）　白鳥義彥（神戸大）　鳴海邦碩（大阪大）　成實弘至（京都造形藝術大）　半田章二　疋田正博（以上シィー・ディー・アイ）　前川眞行（大阪女子大）　松本日之春（京都市藝術大）　光永雅明（神戸市外語大）　森口邦彥（社團法人日本工藝會）

一月一六日　破れた理想—ディランの六〇年代　フランソワ・ラショウ（ゲスト）

二月二〇日　一九六〇年代の日本財界　籠谷　直人

三月　五日　書物と出版の六〇年代　葛山　泰央

三月一九日　《團塊の世代》をめぐって　富永　茂樹

四月一六日　三島自決・再考　大澤　眞幸

五月二一日　Connect with '60 s　全員

六月　四日　戰後における性の歴史をいかに考えるか—氾濫・解放・開放・革命…　齋藤　光

六月一八日　家畜と人閒の六〇年代　藤原　辰史

七月　二日　Mes annees 60　フランシス・マルマンド（ゲスト）

七月一六日　第一次怪獸ブーム　遠藤　徹

九月一七日　六〇年代へ向かう《人口》　田中祐理子

一〇月　一日　《言葉と物》の六〇年代　葛山　泰央
一〇月一五日　日本傳統工藝展について　森口　邦彦
一〇月二九日　Liberte, Liberte, ou nous amenes-tu?　フランソワ・ジェスマン（ゲスト）
一一月　五日　ミニスカートの六〇年代　成實　弘至
一一月一九日　教育の六〇年代（補遺）―人間と資本の六〇年代　前川　眞行
一二月　三日　高等教育をめぐる議論と外國　白鳥　義彦
一二月一七日　一九六〇年代の花登筐の仕事―テレビドラマの時間　川崎　博史

近代京都研究　班長　丸山　宏

かつての首都としての文化の長い「傳統」と、近現代の一地方都市という社會・經濟的現實との相克が、近代京都の歴史を織りなしてきた縦糸と横糸と考えれば、「傳統」と現實の互いにずれた都市性格をいかに調整するかが明治以來現在まで京都の實際の政治的課題であった。このずれのなかに、近代京都のさまざまな問題への糸口が潜んでいると思われる。「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を總合的に論じ、さまざまな分野の具體的な主題を互いに論じながら、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成したい。

班員　大原嘉豊　菊地曉　金文京　髙木博志　高階繪里加　谷川穣　水野直樹（以上所内）天野太郎　伊從勉　金坂清則　藤原學　山田誠（以上人間環境學研究科）小林丈廣　秋元せき（以上京都市歴史資料館）イ・ヒャンス（京都造形藝術大・非常勤）石田潤一郎　笠原一人　中川理　並木誠士　日向進（以上京都工藝繊維大）井上章一（國際日本文化研究センター）岡村敬二（京都學園大）長志珠繪（神戸市外大）小野健吉（奈良文化財研究所）小野芳朗（岡山大）黒岩康博（文學研究科・院）才津祐美子（日文研COE）坂口さとこ　清水愛子　山田由希代（以上京都工藝繊維大・院）鈴木榮樹（京都藥科大）高久嶺之介（同志社大）田島達也（京都市立藝大）中村武生（佛教大・非常勤）原田敬一（佛教大）福井純子（立命館大・非常勤）福島榮壽（眞宗大谷派教學研究所）芳井敬郎（花園大）宇佐美尚穂（京都女子大研修員）

一月二四日　大阪の町家の復元とミュージアム　新谷　昭夫
二月二一日　日本近代美術の中の京都／近代京都の美術の中の東京　林　洋子
三月一三日　内裏・内侍所とその遺構について　岸　泰子
明治維新と京都の士族　落合　弘樹
四月一七日　伏見人形から見た近世京都の窯業　木立　雅朗
發掘調査からみた公家町の空間と生活　内田　好昭
五月二九日　明治・大正期の京都府郡部の道路と道路行政―現宮津市域を中心に―　高久嶺之介
六月一九日　近代京都の公衆便所　山崎　達雄
七月一七日　近代の茶室・數寄屋の黎明と京都　桐浴　邦夫
九月一八日　近江商人が美術史に果たした役割―高田敬輔とその門流の畫業を通して―　國賀由美子
一〇月一六日　史蹟名勝天然紀念物保存法の成立と京都の動向　丸山　宏
一一月二〇日　誰か故郷を思わざる―大正期奈良における「郷土」認識―　黒巖　康博
一一月二八日　エクスカーション（天理大學參考館山本交通コレクション・大和郡山舊洞泉寺遊廓）
一二月一八日　奉納繪馬からみる近代　長　志珠繪
紀年祭の時代―金澤・弘前・仙臺・京都―　髙木　博志

アジアネットワークの研究　班長　籠谷　直人

本共同研究は、歴史的地域秩序分析をめざす。アジア地域秩序を規定した帝國・帝國主義・覇權の時代に即して、商人のネットワーク機能の變

遷を考察する。メンバーは、一七世紀から二〇世紀を對象とした歴史家で構成される。中國史、インド史、東南アジア史、日本史、アメリカ史の專門家が一同に會する共同研究を組織した。境界線に圍まれた主家國家間のシステムとは異なる、經濟的な發展徑路の存在を歴史的なアジアに探りたい。主權國家の境界線によってその伸張が制約されながらも、帝國の下で育まれたアジア商人のネットワークが、今日も市場秩序を提供しているとの視點にもとづいて、アジア・ネットワークを檢討・考察し、主權國家間システムの相對化をめざす。

班員　岩井茂樹　村上衞（以上所内）　小野澤透（文學研究科）　井口治夫（名古屋大環境學研究科）　上田貴子（日本學術振興會特別研究員）　大石高志（神戸市立外國語大國際關係）　岡本隆司（京都府立大・文）　加藤雄三（總合地球環境學研究所）　陳天璽（國立民俗學博物館）　陳來幸（兵庫縣立大・經）　福岡正章（同志社大・經）　水野祥子（大阪大・文）　宮田敏之（天理大・國際文化）　藪下信幸（近畿大・經營）　脇村孝平（大阪市立大・經）

四月　九日　The Colonial Abolition of Muslim Slavery　William C. Smith（ロンドン大 SOAS）

四月一六日　中國東北地域における山東　上田　貴子

四月二五日　帝國論の射程―『帝國の研究』（名古屋大學出版會、二〇〇三年）をめぐって　Bin Wong（カリフォルニア大學アーヴァイン校）

四月三〇日　財界ネットワーク論　籠谷　直人

一九三〇年代アジア地域秩序論　籠谷　直人

五月一四日　東アジア地域形成　白石　隆（東南アジア研究所）

五月二八日　一八八〇年代の朝鮮における華僑商人の活動と開港場　石川　亮太（佐賀大學）

屬國と自主のあいだ　岡本　隆司

六月一一日　イースタンバンク問題とイギリス帝國主義　川村　朋貴（富山大學）

中華總商會ネットワークについて　陳　來幸（兵庫縣立大學）

六月二五日　一九世紀後半の閩南商人の轉換　村上　衞

一七世紀前半におけるイギリス東インド會社　藪木　信幸（近畿大學）

七月　九日　二〇世紀初頭における香港の銀本位制とアジアにおける國際金本位制の普及　西村　雄志（大阪大學・院）

木内信胤と戰後日米經濟關係　井口　治夫

八月　六日（小樽）　遠藤乾（北海道大學）氏との共同研究（グローバル・ガバナンスにむけての知の再編）活動成果の交換と檢討會。

九月　四日　公開シンポジウム（中華會館、神戸）

「華僑・華人ネットワークの新時代」

趣旨：華僑・華人ネットワークという言葉が叫ばれて久しい。ところがその實態がどのようなもので、具體的にどのように機能しているのかに關し、明確に定義することは難しい。今回「華僑・華人ネットワークの新時代」と題し、事業界の第一線で活躍されている在日華僑・華人のパネリストに、父祖の來日の經緯から、一族の家業の移り變わり、そして現在手がけているビジネスについてお話をうかがう。六名のパネリストがそれぞれ考える華僑・華人ネットワークとはどのようなものであるのだろうか。ご自身のアイデンティティ、國籍・婚姻・子弟の教育に對する考え方、文化的な歸屬意識はどのようなものであるのかについてお話をいただいたうえ、コメンテーターの發言をうけて、皆様と一緒にこの問題について議論を深めたい。

パネリスト：曹英生（南京町老祥記、神戸華僑三世、南京町商店街振興組合理事長）　陳優繼

（株式會社四海樓、長崎華僑四世、社團法人長崎青年會議所理事長）金啓功（株式會社神戸華聯旅行社、大阪・神戸華僑三世）段玉容（光明株式會社、大阪華僑三世）梁建宏（セキ有限會社、神戸華僑三世）江川文平（日信商事株式會社、神戸華僑三世）

コメンテーター：大迫鹿記子（毎日新聞社神戸支局、記者）伊藤泉美（横濱開港資料館、調査研究員）

九月一七日　香港地域宗族團體における「家産」・「族産」と地域社會編成　松原　健太郎（東京大學）

一〇月　八日　日本帝國史の課題と方法―戰前期の在華紡を素材として　籠谷　直人

一〇月二二日　英領期インドにおける飢饉・疫病と貧困　ナショナリストとリビジョニストの論爭に關連して　脇村　孝平

一一月一二日　中東　小野澤　透

一一月二六日　明清帝國と朝貢システム　岩井　茂樹

二月一八～一九日　國際ワークショップ

Session 1 : "Study on Empire"

"Considering the notion of Empire through the Japan's experience of building state" Naoto Kagotani "Empire and Intervention : International Financial Policies of Leith-Ross" Ken Ishida (Chiba University)

Session 2 : Round Table Session "How to study "Networks" : Questions, Focuses, and Materials", Part 1

Chen Laixing (Hyogo Prefectural University)
Chen Tien-shi (The National Museum of Ethnology)
Kagotani Naoto
Ueda Takako

Session 3 : "Study on the Overseas Indian Networks"

"Indian Merchants in Modern Japan : Historical Overview with a Focus on the Resources of their Network" Takashi OISHI (Kobe City University for Foreign Studies)

"The Indian Diaspora in Japan and Japanese Pan-Asianism" Masataka Matsuura (Hokkaido University)

Session 4 : Round Table Session "How to study "Networks" : Questions, Focuses, and Materials", Part 2

Choi Chi-cheung (Hong Kong University of Science and Technology)
Chung Shu-ming (Academia Sinica)
Ishikawa Ryota (Saga University)
Lee pui Tak (The University of Hong Kong)
Liu Hong (Singapore National University)
Murakami Ei (Kyoto University)
Ohishi Takashi (Kobe University for Foreign Studies)
WU Xiao An (Peking University)

個人研究

東方學研究部

中國古代の傳承文化研究　小南　一郎
五千年美術の様式的、圖象學的研究　曾布川　寛
中國建築の様式・技法・空間　田中　淡
近代中國の綿紡績業　森　時彦
道教思想研究　麥谷　邦夫
敦煌寫本の言語史的研究　高田　時雄
中國古代中世の法制　冨谷　至
中國の小說、演劇及び說唱文學の歷史　金　文京
清代の文化と社會　井波　陵一
中國傳統科學の思想史的考察　武田　時昌
近代中國の財政と社會　岩井　茂樹
先秦時代の金文　淺原　達郎
古代中國の考古學的研究　岡村　秀典
川西走廊の漢藏諸語の記述研究　池田　巧
インド・中國における佛教の學術と實踐　船山　徹
文字コード理論　安岡　孝一
イスラーム東漸史の研究　稲葉　穣
佛教研究知識データベース——禪佛教を中心として　ウィッテルン・クリスティアン
中國共產黨の研究　石川　禎浩
秦漢時代の制度　宮宅　潔
清代の道教龍門派の歷史及び內丹の研究　エスポジト・モニカ
ムガル朝時代の歷史敍述の研究　眞下　裕之
中國近世の國家支配の研究　古松　崇志
文字定義情報に基づく文書表現系に關する研究　守岡　知彦
客家語およびその周邊言語の記述研究　中西　裕樹
中國佛教繪畫の研究　大原　嘉豊
中國古代中世の官制史　藤井　律之
モンゴル時代の文化政策と出版活動　宮　紀子
近代華南沿海地域の社會經濟變動　村上　衛
中國魏晉南北朝志怪の成立背景　佐野　誠子
明代後期「北虜南倭」時代の中國社會　山崎　岳
中國家具とその使用に關する研究　髙井たかね

人文學研究部

シュメールの行政・經濟文書の研究　前川　和也
フランスの詩學　宇佐美　齊
前近代の文明史的研究　横山　俊夫
近代東アジアにおける日本の法と政治　山室　信一
フランス革命と近代的主體の成立　富永　茂樹
近代朝鮮の政治と社會　水野　直樹
在日米軍を中心とする軍事共同體の人類學的研究　田中　雅一
文學理論の研究　大浦　康介
ヴェーダ文獻の生成と傳承の研究　藤井　正人
戰前期日本の工業化と華僑ネットワーク　籠谷　直人
近代天皇制の文化史的研究　髙木　博志
人種・エスニシティ論　竹澤　泰子
近代日本の藝術と西洋　高階繪里加
現代社會における生物學・生命科學　加藤　和人
音樂におけるロマン派とメロドラマ的音樂　岡田　曉生
一九世紀イギリスのポピュラー・コンサヴァティズム　小關　隆
南アジアの歷史人類學　田邊　明生
ポール・バレリーと二〇世紀の思想　森本　淳生
南アジア・ムスリム社會の社會構造　小牧　幸代
近代日本民俗誌システムの研究　菊池　曉
近世ヨーロッパの國際金融研究　坂本優一郎
近代西洋醫學發展史研究および身體論　田中祐理子
ナチスドイツの農業問題　藤原　辰史
近代日本における教育／教化／宗教の關係史　谷川　穣
身體技法の認識論　倉島　哲
近代朝鮮在住日本人社會の研究　李　昇燁

事業概況

夏期公開講座

（於　本館大會議室）

記念日の創造

第一日（七月二日）

記憶を造形する命日—ベンジャミン・ディズレイリとプリムローズ—　小關　隆

フェンスの中の記念と祈念—米陸軍生誕舞踏會—　田中　雅一

第二日（七月三日）

中國の祭日と死者を巡る物語り　佐野　誠子

思い出せない苦惱—中國共產黨の記念日—　石川　禎浩

創立七五周年記念「中國宗教文獻研究國際シンポジウム」

（於　京都大學百周年時計臺記念館國際交流ホール）

第一日（一一月一八日）

佛教文獻

論漢文大藏經的分期與特點　上海師範大學　方　廣錩

『佛典漢語詞典』の構想　創價大學國際佛教學高等研究所　辛嶋　靜志

日本の古寫經と中國佛教文獻—天野山金剛寺藏平安後期寫『優婆塞五戒法』の成立と流傳を巡って　國際佛教學大學院大學　落合　俊典

〝洛州無影〟：《南海寄歸內法傳》中一條記載的最新考察　北京大學　王　邦維

經典の僞作と編輯—『遺教三昧經』と『舍利弗問經』　船山　徹

Chinese Sources on Divākara 地婆訶羅　ナポリ東洋大學　Antonino Forte

第二日（一一月一九日）

佛教文獻

《禪苑淸規》中所見唐・宋寺院中的茶禮和湯禮　臺灣中央研究院　劉　淑芬

Monks and Texts in Stone Inscriptions during the Tang, with Special Reference to the Dazangjing 大藏經 Collection　イタリア國立東方學研究所　Silvio Vita

Translation Strategies in Dharmaraksa's 竺法護 Version of the Lotus Sutra, wth Special Reference to Chapter 3 (“Parable”)　フランス國立高等研究院　Jean-Noël A. Robert

漢文摩尼教經與景教經之宏觀比較　中山大學　林　悟殊

Digging out God from the Rubbish Heap—The Chinese Nestorian Documents and the Ideology of Research　ウィーン大學　Max Deeg

唐代佛道二教眼中的外道—景教徒　北京大學　榮　新江

『歸眞總義』—中央アジアにおけるその源流　京都大學　濱田　正美

第三日（一一月二〇日）

道教文獻

Reconsidering the Story of Xu Xun 許遜, Patriarch of Jingming dao 淨明道　ワシントン大學　Judith Magee Boltz

The Illumination of Ritual: Lu Xiujing's 陸修靜 Reflections on the Retreat　フランス國立極東學院　Franciscus Verellen

The Secret of the Golden Flower 金華宗旨 and the Establishment of the Longmen 龍門 Lineage at Mt. Jin'gai 金蓋 during the Qing Dynasty　Monica Esposito

天書雲篆：道教符圖的文獻及其分析　四川社會科學院　李　遠國

靈寶〝天文〟信仰與古靈寶經教義的展開——以敦煌本《太上洞玄靈寶眞文度人本行妙經》爲中心　中山大學　王　承文

道教類書と教理體系　麥谷　邦夫

寶卷と明淸の民間信仰—目連傳承を中心として　小南　一郎

第四日（一一月二一日）

中國宗教文獻情報學

數位化古籍校勘版本處理技術—以 CBETA 大正藏電子佛典爲例　國立臺北藝術大學　釋惠敏

大規模佛教文獻群に對する確率統計的分析の試み　花園大學　師　茂樹

The Chan School as Seen through the Tang Knowledgebase　Christian Wittern
Historical Inscriptions at Cloud Dwelling Monastery 雲居寺: Preparations for a CD-ROM
ハイデルベルグ大學　Matthias Arnold
Digital Resources in Daoist Studies
スタンフォード大學　Fabrizio Pregadio

漢字情報研究センター講習會

・「東洋學へのコンピュータ利用」第一五回研究セミナー（二〇〇四年三月二六日）

Unicode の character 概念に關する一考察
花園大學　師　茂樹

透明テキスト付き畫像作成ツールの開發
安岡　孝一

古典的オントロジ資源の形成―和漢古典學のオントロジ―　國文學研究資料館　相田　滿

漢字文獻データはもっとシンプルでもよいのではないか　茨城大學　二階堂善弘

怪異・妖怪傳承データベースの制作と分析―地域・年代分布を中心に―
國際日本文化研究センター　山田　奬治

京都バーチャル時・空間
立命館大學　矢野　桂司

GISで探る近世大坂と東南アジア海ルート交易史―地理情報システムGISの歴史研究への應用と可能性―　京都大學　柴山　守

・二〇〇四年度漢籍擔當職員講習會（初級）

第一日（一〇月四日）

漢籍について　東京大學　大木　康

漢籍目錄の構造　京都大學　宇佐美文理

カードの取り方　山崎　嶽

第二日（一〇月五日）

工具書について　藤井　律之

漢籍目錄カード作成實習

第三日（一〇月六日）

文字コードとテキスト處理の歴史
ウィッテルン・クリスティアン

目錄檢索とデータベース檢索　安岡　孝一

漢籍データベースについて　高田　時雄

漢籍データ入力實習

第四日（一〇月七日）

漢籍目錄を讀む　千葉大學　古勝　隆一

漢籍データ入力實習

第五日（一〇月八日）

NII總合目錄データベースと全國漢籍データベース　國立情報學研究所　宮澤　彰

實習解說　梶浦　晉

・二〇〇四年度漢籍擔當職員講習會（中級）

第一日（一一月八日）

四部分類概說　宮宅　潔

諸子百家から子部書へ　武田　時昌

叢書――漢籍分類の特色　梶浦　晉

第二日（一一月九日）

中國の寫本について
滋賀醫科大學　辻　正博

叢書と漢籍データベース　安岡　孝一

漢籍データ入力實習

第三日（一一月一〇日）

朝鮮の漢籍について　矢木　毅

漢籍データ入力實習

第四日（一一月一一日）

現代中國書について　村上　衛

漢籍データ入力實習

第五日（一一月一二日）

『東洋學文獻類目』について
富山大學　森賀　一惠

實習解說　梶浦　晉

所員動靜

。山本有造（人文學研究部）教授は定年により退職（三月三一日付）。

。井狩彌介（人文學研究部）教授は定年により退職（三月三一日付）。

。佐々木克（人文學研究部）教授は定年により退職（三月三一日付）。

。小林博行（人文學研究部）助手は辭任の上（三月三一日付）、中部大學人文學部助教授に就任。

。東鄉俊宏（東方學研究部）助手は辭任の上（三月三一日付）、鈴鹿醫療科學大學鍼灸學部助教授に就任。

。堂山英次郎（人文學研究部）助手は辭任の上（四月一日付）、大阪大學大學院文學研究科講師に就任。

。古勝隆一（東方學研究部）助手は辭任の上（四

月一日付)、千葉大學文學部助教授に就任。
○大浦康介(人文學研究部)助教授は當研究所(人文學研究部)教授に昇任(四月一日付)。
○田中雅一(人文學研究部)助教授は當研究所(人文學研究部)教授に昇任(四月一日付)。
○藤井正人(人文學研究部)助教授は當研究所(人文學研究部)教授に昇任(四月一日付)。
○加藤和人(人文學研究部)助教授は大學院生命科學研究科助教授に併任(四月一日〜二〇〇五年三月三一日)。
○丸山宏名城大學農學部教授は、客員教授(文化研究創成研究部門、四月一日〜二〇〇五年三月三一日)。
○緒形康神戸大學文學部助教授は、客員助教授(文化研究創成研究部門、四月一日〜二〇〇五年三月三一日)。
○矢木毅宮崎大學教育文化學部助教授を當研究所(東方學研究部)助教授に採用(四月一日付)。
○倉島哲氏を助手(人文學研究部)に採用(四月一日付)。
○李昇燁氏を助手(人文學研究部)に採用(四月一日付)。
○山崎岳氏を助手(東方學研究部・附屬漢字情報研究センター)に採用(四月一日付)。
○髙井たかね氏を助手(東方學研究部・附屬漢字情報研究センター)に採用(八月一日付)。
○田邊明生大學院アジア・アフリカ地域研究研究科助教授は當研究所(人文學研究部)助教授に配置換(一〇月一日付)。
○大浦康介助教授(人文學研究部)は、二〇〇三年一二月二二日大阪發、バリ島、ウブド、プリアタン及びオイスカ研修センター等に於いてインドネシアと東チモールにおける繪畫制作支援及びパーフォーミング・アーツの調査を行い、一月五日歸國。
○小牧幸代助手(人文學研究部)は二〇〇三年一二月二九日成田發、イスラーム布教協會、アル・ホダー・インターナショナル、政策學研究所、國際イスラーム大學イスラーム研究所及び宗教省に於いて海外の宗教事情に關する調査を行い、一月九日歸國。
○ウィッテルン、クリスティアン助教授(東方學研究部・附屬漢字情報研究センター)は、一月七日大阪發、中華佛學研究所に於いて佛教情報學ワークショップに出席、中華電子佛典協會に於いて研究打合せを行い、一月一四日歸國。
○宮宅潔助教授(東方學研究部)は、文部科學省在外研究員旅費及び委任經理金により、一月八日大阪發、大英圖書館及び大英博物館に於いて木簡及びその出土地に關する調査、スタイン・コレクション中の遺跡寫眞の調査を行い、一月一五日歸國。
○田中雅一助教授(人文學研究部)は、一月五日大阪發、バンガロール州立公文書館及びマイソール州立公文書館(インド)に於いて宗教事情についての調査を行い、一月一七日歸國。
○富永茂樹教授(人文學研究部)は、文部科學省科學研究費補助金により、一月二四日大阪發、社會科學高等研究院、國立圖書館、パリ市立歴史圖書館(フランス)に於いて「一九六〇年代の研究」に關する資料收集及び研究打合せを行い、二月一日歸國。
○藤井律之助手(東方學研究部)は、文部科學省科學研究費補助金により、二月一日大阪發、スウェーデン國立民族學博物館に於いてスウェン・ヘディンコレクションの調査を行い、二月八日歸國。
○小牧幸代助手(人文學研究部)は、文部科學省科學研究費補助金により、二月二日大阪發、ジャーミア・ミッリヤ・イスラーミーヤ大學及びイスラームの聖地等に於いて南アジア・ムスリム社會における「預言者信仰」の詩學と政治學に關わる現地調査及び資料收集を行い、二月一一日歸國。
○藤井正人助教授(人文學研究部)は、文部科學省科學研究費補助金により、一月一七日大阪發、マドラス、トリチュール、トリヴァンドラム等(インド)に於いてヴェーダ傳承の現地調査を行い、二月一四日歸國。
○曾布川寛教授(東方學研究部)は、文部科學省科學研究費補助金により、二月五日大阪發、南京大學、南京博物院、南京市博物館、徐州市博物館、徐州市石刻藝術館、滕州市博物館、山東省博物館、山東石刻藝術博物館及び上海博物館に於いて中國美術の調査及び資料蒐集を行い、二月一五日歸國。

。眞下裕之助手（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月一日大阪發、アーンドラ・プラデーシュ州公文書館（インド）に於いて「前近代インドにおけるイスラーム諸國家制度の動態的研究」に關する文獻調査及び資料收集を行い、二月二一日歸國。

。小關隆助教授（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月一一日大阪發、オックスフォード大學ボドリアン圖書館に於いて「イギリス保守主義とディズレイリの記憶」に關わる史料調査・收集を行い、二月二四日歸國。

。古松崇志助手（東方學研究部）は、京都大學教育研究振興財團助成金により、二〇〇三年七月二二日大阪發、北京大學中國古代史研究中心に於いて中國近代史研究のための漢籍文獻史料調査、古跡文物調査を行い、二月二九日歸國。

。麥谷邦夫教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月二七日大阪發、天后廟（臺灣）に於いて調査を行い、三月一日歸國。

。籠谷直人助教授（人文學研究部）は、日本學術振興會委託研究費により、三月二日大阪發、アジア研究協會（サン・ディエゴ）に於いて第五六回アジア研究協會大會に出席及び學術報告を行い、三月七日歸國。

。高田時雄教授（東方學研究部）は、文部科學省研究據點形成費補助金により、三月五日大阪發、中國國家圖書館に於いて漢字文獻數據庫に關する打合せを行い、三月七日歸國。

。山室信一教授（人文學研究部）は、三月二日大阪發、浙江大學日本文化研究所に於いて國際シンポジウム「明治時代的儒學」における基調講演、寧波市内に於いて資料調査を行い、三月八日歸國。

。水野直樹教授（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、三月五日大阪發、アジア研究協會（サン・ディエゴ）に於いて第五六回アジア研究協會大會に出席及び學術報告を行い、三月九日歸國。

。加藤和人助教授（人文學研究部）は、三月七日大阪發、英國保健省及び下院科學技術審議會（連合王國）、ELSAGENプロジェクト（アイスランド）に於いて遺傳情報に關する調査・研究に對する倫理的・法的・社會的問題についての海外動向調査を行い、三月一二日歸國。

。田中雅一助教授（人文學研究部）は、京都大學教育研究振興財團助成金により、三月六日大阪發、ロンドン戰爭博物館、在獨米陸軍基地及び在伊米海軍基地に於いて軍隊展示調査、駐留米軍・在留米軍の調査を行い、三月一三日歸國。

。冨谷至教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、二月二九日大阪發、ライデン大學及びミュンスター大學に於いて中國法制史に關する研究打合せを行い、三月一四日歸國。

。竹澤泰子助教授（人文學研究部）は、三月九日成田發、ロンドン人種平等委員會事務局及びパリ大學に於いて人種關係の實態と法制の調査を行い、三月一六日歸國。

。稲葉穣助教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、三月五日大阪發、コロンボ大學、コロンボ博物館等に於いて南アジアにおけるイスラーム初傳傳說の研究に關する調査・資料收集を行い、三月一七日歸國。

。森本淳生助手（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、三月八日大阪發、フランス國立圖書館に於いてポール・ヴァレリーに關する資料收集を行い、三月二一日歸國。

。村上衞助手（東方學研究部）は、日本學術振興會委託研究費により、三月一五日大阪發、中央研究院近代史研究所に於いて中國近代史に關する史料收集を行い、三月二三日歸國。

。麥谷邦夫教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、三月一五日大阪發、北京大學、社會科學院及び乾元觀に於いて江南道教關係資料蒐集及び現地調査を行い、三月二三日歸國。

。高田時雄教授（東方學研究部）は、文部科學省研究據點形成費補助金により、三月一六日大阪發、バルセロナ大學、バチカン圖書館及びイエズス會古文書館に於いてSangley語文獻に關する調査及び資料收集を行い、三月二三日歸國。

。金文京教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、三月一九日大阪發、ハ

ノイ國立博物館及び漢喃研究院に於いてベトナム所存漢文説話資料調査を行い、三月二三日歸國。

。安岡孝一助教授（東方學研究部・附屬漢字情報研究センター）は、文部科學省研究據點形成費補助金により、三月一三日成田發、アメリカ議會圖書館及びニューヨーク公立圖書館に於いて文字コード關連文獻の所藏調査を行い、三月二四日歸國。

。東鄉俊宏助手（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、三月一七日大阪發、北京中醫研究院及び崑崙飯店に於いて老中醫臨床技術の系譜に關する資料蒐集及び研修等を行い、三月二四日歸國。

。ウィッテルン、クリスティアン助教授（東方學研究部・附屬漢字情報研究センター）は、三月一七日大阪發、中華佛學研究所に於いて"XML Text Processing"ワークショップに出席、フランス規格協會に於いてTEI METAワーキンググループ・ミーティングに出席し、三月二五日歸國。

。池田巧助教授（東方學研究部）は、二〇〇三年四月一日成田發、カリフォルニア大學バークレー校に於いて西南中國のムニャ語についての記述言語學的研究を行い、三月三一日歸國。

。籠谷直人助教授（人文學研究部）は、三月二八日大阪發、臺灣中央研究院に於いて海外華人研究學會に出席及び研究報告を行い、四月三日歸國。

。宇佐美齊教授（人文學研究部）は、三月五日大阪發、フランス、トゥールーズ・ル・ミライユ大學及び國立東洋言語文化研究所に於いて講義、講演及び文獻資料調査を行い、四月一〇日歸國。

。池田巧助教授（東方學研究部）は、四月一六日大阪發、香港城市大學に於いて第三屆兩岸三地藏緬語族語言學研討會に出席及び報告を行い、四月一九日歸國。

。高田時雄教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、四月二九日大阪發、シドニー大學に於いて新舊キリスト教ミッション出版資料の調査を行い、五月三日歸國。

。ウィッテルン、クリスティアン助教授（東方學研究部・附屬漢字情報研究センター）は、五月一一日大阪發、ベルギー・ロイヤルアカデミーに於いてTEIテキニカル・カウンシル年次會議に出席し、五月一七日歸國。

。李俊植外國人研究員は、五月一九日大阪發、延世大學に於いて「日本のファシズム體制と朝鮮知識人」シンポジウムに出席し、五月二三日歸國。

。富永茂樹教授（人文學研究部）は、四月二三日大阪發、フランス・社會科學院高等研究院、國立圖書館及びポルトガル・コインブラ大學に於いてフランス革命に關する資料收集を行い、五月二八日歸國。

。曾布川寛教授（東方學研究部）は、六月一日大阪發、河北省文物研究所、山西省考古研究所、大同市博物館、遼寧省博物館、遼寧省文物研究所、北京國家博物館及び社會科學院考古研究所に於いて中國美術に關する出土文物の調査を行い、六月九日歸國。

。高田時雄教授（東方學研究部）は、六月一〇日大阪發、輔仁大學に於いて二〇〇四年古籍學術講演會に出席及び講演を行い、六月一三日歸國。

。ウィッテルン、クリスティアン助教授（東方學研究部・附屬漢字情報研究センター）は、六月九日大阪發、中華佛學研究所に於いて"XML Text Processing"ワークショップに出席し、六月一四日歸國。

。古松崇志助手（東方學研究部）は、京都大學教育研究振興財團助成金により、三月八日大阪發、中央研究院歷史語言研究所に於いて中國近代史研究のための漢籍文獻史料調査を行い、六月一五日歸國。

。麥谷邦夫教授（東方學研究部）は、六月一七日大阪發、青島・太清宮、北京大學及び國家圖書館に於いて調査及び道教關係資料蒐集を行い、六月二二日歸國。

。竹澤泰子助教授（人文學研究部）は、七月一三日成田發、全米日系博物館に於いて日系レガシイプロジェクト會議に出席、カリフォルニア大學ロサンゼルス校、バークレー校及びハーバード大學に於いて國際交流基金アジア系アメリカ人調査を行い、七月二五日歸國。

。高田時雄教授（東方學研究部）は、文部科學省

研究據點形成費補助金により、七月二三日大阪發、中國國家圖書館に於いて國際ワークショップ開催に關する打合せを行い、七月二七日歸國。

○曾布川寛教授（東方學研究部）は、七月一六日大阪發、四川大學博物館、四川省博物館、綿陽市博物館、漢中市博物館及び國家博物館等に於いて中國美術の調査及び資料蒐集を行い、八月四日歸國。

○山室信一教授（人文學研究部）は、七月二三日大阪發、バンコク及びマニラの戰跡記念碑、戰爭記念館及び博物館等に於いて「アジアにおける記憶遺跡と調査活動」に關する調査を行い、八月六日歸國。

○金文京教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、八月九日大阪發、ソウル大學校奎章閣及び韓國精神文化研究院に於いて李朝期資料調査を行い、八月一三日歸國。

○曾布川寛教授（東方學研究部）は、八月六日大阪發、中國國家博物館、故宮博物院、甘肅省博物館、武威博物館等に於いて中國美術の調査及び資料蒐集を行い、八月一六日歸國。

○小南一郎教授（東方學研究部）は、八月二二日大阪發、北京大學に於いて第一回北京フォーラムに參加及び論文發表を行い、八月二六日歸國。

○宮宅潔助教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、八月一八日大阪發、ミュンスター大學及びベルリン自由大學に於いて中國古代法制史の研究に關わる資料調査及び研究打合せを行い、八月三〇日歸國。

○エスポジト、モニカ助教授（東方學研究部）は、七月一八日大阪發、コレージュ・ド・フランス圖書館及びフランス極東學院に於いて道教に關する資料收集及び會議に出席し、八月三一日歸國。

○池田巧助教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、七月二六日大阪發、中央民族大學、西南民族大學及び民族研究所に於いて資料收集、康定に於いてムニャ語及びカム方言の記述調査を行い、九月三日歸國。

○岡村秀典助教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、八月二九日大阪發、中國・日照、濰防、栖霞及び煙臺に於いて稻作遺跡調査を行い、九月七日歸國。

○古松崇志助手（東方學研究部）は、文部科學省研究據點形成費補助金により、八月二五日大阪發、フフホト内蒙古文物考古研究所に於いて「内蒙古文物考古研究所成立五〇周年國際會議」に出席、報告及び資料調査を行い、遼慶州遺跡、巴林右旗博物館、中京遺跡等に於いて史料、遺跡、古跡調査及び研究打合せを行い、九月九日歸國。

○坂本優一郎助手（人文學研究部）は、文部科學省在外研究員旅費により、二〇〇三年九月一五日大阪發、ロンドン大學に於いてロンドン・シティと財政軍事國家の關係に關する研究を行い、九月一四日歸國。

○佐野誠子助手（東方學研究部）は、八月一六日大阪發、中央研究院歷史語言研究所に於いて魏晉南北朝期の祠廟文化と文學の關係に關する調査研究を行い、九月一四日歸國。

○山崎岳助手（東方學研究部・附屬漢字情報研究センター）は、八月一六日大阪發、中央研究院歷史語言研究所に於いて明代倭寇に關する調査及び資料收集を行い、九月一四日歸國。

○竹澤泰子助教授（人文學研究部）は、九月一二日成田發、ワシントンDCに於いて人種とヒトの多樣性に關する專門家會議に出席し、スミソニアン博物館及びジョージ・ワシントン大學に於いて資料收集を行い、九月一七日歸國。

○村上衞助手（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、九月五日大阪發、中國常州市武進區における現地調査、常州市頤庚案館等に於ける資料收集を行い、九月一八日歸國。

○石川禎浩助教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金（一部先方負擔）により、九月九日大阪發、中國社會科學院近代史研究所に於ける學術講演、中國國家圖書館、徐州師範大學及び上海圖書館等に於いて資料調査を行い、九月二二日歸國。

○加藤和人助教授（人文學研究部）は、九月一九日大阪發、英國ケンブリッジ、クラウンプラザ・ホテルに於いて開催の國際ハップマップ計畫第五回運營會議に出席し、九月二三日歸國。

○岡田曉生助教授（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、九月一一日大阪發、ベルリン國立國會圖書館及びバーゼル大學圖書館に於いて一九世紀ピアノ音樂における技術の諸相に關する資料調査を行い、リスト音樂院で開催の國際シンポジウムでパネラーを務め、九月二五日歸國。

○藤原辰史助手（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、七月二二日大阪發、フンボルト大學及びWELEDA本社に於いて初期有機農業史史料收集を行い、九月二六日歸國。

○李昇燁助手（人文學研究部）は、九月一三日大阪發、釜山市立圖書館、國立中央圖書館、國史編纂委員會及び韓國精神文化研究院に於いて戰前朝鮮在住日本人社會關係資料調査を行い、九月二七日歸國。

○冨谷至教授（東方學研究部）は、三月二二日大阪發、ミュンスター大學に於いて東アジア世界の法制に關する比較史的研究を行い、九月二九日歸國。

○中西裕樹助手（東方學研究部）は、京都大學教育研究振興財團助成金により、七月一日大阪發、香港中文大學及び香港北部・廣東省南部地域に於いて香港における客家語の衰退に對する廣東語の支配的影響に關する社會言語學的調査及び關連資料收集を行い、九月三〇日歸國。

○大原嘉豐助手（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、九月二一日成田發、中國・安嶽及び大足に於いて石窟調査を行い、九月三〇日歸國。

○船山徹助教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金（一部先方負擔）により、一〇月一三日大阪發、ブリティッシュ・コロンビア大學に於いてシンポジウム「アジアの佛教聖地」に出席・發表及び中國六朝佛教史に關する資料收集を行い、一〇月二〇日歸國。

○田中雅一教授（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、一〇月二七日大阪發、シンガポール、オーチャード・パレード・ホテルに於いて開催の平成一六年度アジア太平洋シンポジウムに出席・發表を行い、一一月二日歸國。

○岡村秀典助教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、一〇月二五日大阪發、陝西省及び山西省の古代遺跡の調査を行い、一一月四日歸國。

○高田時雄教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、一一月一日大阪發、上海圖書館に於いて徐家匯藏書樓におけるキリスト教ミッション關連資料調査を行い、一一月五日歸國。

○藤井正人教授（人文學研究部）は、一〇月二八日大阪發、ヘルシンキ大學に於いて現存ヴェーダ傳承に關する共同研究打合せ及び資料收集を行い、一一月六日歸國。

○宮宅潔助教授（東方學研究部）は、一一月一一日大阪發、忠北大學校に於いて中國簡牘學國際學術大會に出席及び發表を行い、一一月一四日歸國。

○藤井律之助手（東方學研究部）は、一一月一一日大阪發、忠北大學校に於いて中國簡牘學國際學術大會に出席及び發表を行い、一一月一四日歸國。

○岡田曉生助教授（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、一一月一二日大阪發、ヴェネチア音樂院及びパリ國立圖書館音樂部に於いて一九世紀ピアノ音樂に關する資料調査を行い、一一月二〇日歸國。

○金文京教授（東方學研究部）は、一一月一七日大阪發、中央研究院中國文哲研究所に於いて「經典轉化與明清叙事文學」學術研討會に參加及び論文發表を行い、一一月二一日歸國。

○田中淡教授（東方學研究部）は、一一月二三日大阪發、中央研究院臺灣史研究所に於いて「第二回被殖民地都市と建築—本土文化と殖民」國際シンポジウムに出席及び發表を行い、一一月二六日歸國。

○村上衛助手（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、一一月二一日大阪發、中央研究院近代史研究所に於いて中國近代經濟史に關する史料收集を行い、一二月二日歸國。

○坂本優一郎助手（人文學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、一一月二二日大阪發、ロンドン大學、イングランド銀行及びケン

ブリッジ大學に於いてイギリス財政革命の政治的・社會的影響に關する研究打合せ及び史料收集を行い、一二月三日歸國。

。高木博志助教授（人文學研究部）は、一二月二日大阪發、韓國・大雄經營開發院に於いて「批判と連帶のための東アジア歴史フォーラム」に出席し、一二月五日歸國。

。山室信一教授（人文學研究部）は、一二月二日大阪發、韓國・東亜大學校に於いて國際シンポジウム「東アジアの記憶における滿州」に出席・講演及び史料調査を行い、一二月六日歸國。

。高田時雄教授（東方學研究部）は、文部科學省研究據點形成費補助金（一部先方負擔）により、一二月六日大阪發、臺灣國家圖書館に於いて數位時代漢學資源國際研討會に出席及び報告、臺灣大學圖書館に於いて研究打合せを行い、一二月一一日歸國。

。石川禎浩助教授（東方學研究部）は、文部科學省科學研究費補助金により、一二月二一日大阪發、上海市頤庚案館に於いて共同租界警察に關する資料調査を行い、一二月二六日歸國。

外國人研究員

。李　俊植　延世大學校國學研究院研究教授
戰時體制期朝鮮社會に關する研究
（文化連關研究客員部門）
受入教員　水野教授
期間　二月一日～九月一六日

。MARMANDE, Francis　パリ第七大學教授
ジョルジュ・バタイユの日本における受容
（文化生成研究客員部門）
受入教員　大浦教授
期間　四月一日～七月三一日

。范　金民　南京大學歴史系教授
清代契約文書の研究
（文化生成研究客員部門）
受入教員　岩井教授
期間　八月一五日～二〇〇五年二月一四日

。HANLEY, Susan Bell　ワシントン大學名譽教授
日本の家屋・家族・社會、一六〇〇年から現代まで―ひとつの文化研究
（文化連關研究客員部門）
受入教員　横山教授
期間　一一月二二日～二〇〇五年二月二八日

招聘外國人學者

。Wang Liping　ミネソタ大學準教授
駐防八旗と民族問題―清代の都市文化形成における滿漢關係の研究
受入教員　岩井教授
期間　二〇〇三年九月一九日～二〇〇五年九月一八日（繼續）

。RUOFF, Kenneth James　ポーランド州立大學助教授
「日本帝國」における紀元二六〇〇年祝典（一九四〇年）の研究
受入教員　高木助教授
期間　一月五日～八月三一日

。CHEN, Jue　カンタベリー大學講師
初唐傳奇小說研究
受入教員　小南教授
期間　一月一二日～二月一五日

。劉　苑如　中央研究院中國文哲研究所副研究員
理與教：從《冥祥記》到《冥報記》的小說發展
受入教員　小南教授
期間　三月三一日～四月二六日

。SMITH, Henry　コロンビア大學東アジア學科教授
浪曲における赤穂義士の研究
受入教員　高木助教授
期間　四月一日～一二月三一日

。池上　英子　ニュー・スクール大學大學院教授
祇園祭の歴史社會學的研究
受入教員　高木助教授
期間　四月六日～七月二〇日

。黃　蘭翔　中央研究院臺灣史研究所副研究員
中國佛教寺院の平面配置の形成過程に關する研究
受入教員　田中淡教授
期間　七月一四日～九月三〇日

。蔡　榮婷　國立中正大學中國文學系副教授
祖堂集中禪宗詩偈研究
受入教員　高田教授

期間　七月一五日～七月二九日
◦鍾　淑敏　中央研究院臺灣史研究所助研究員
アジア・ネットワークにおける臺灣商人の活動
受入教員　籠谷助教授
期間　七月一五日～八月三一日
◦陳　昭容　中央研究院歴史語言研究所副研究員
先秦金文研究―青銅器銘文から兩周時期の家族と婚姻をみる
受入教員　淺原教授
期間　八月一六日～九月一〇日
◦祝　平一　中央研究院歴史語言研究所副研究員
中國近世科學史の研究
受入教員　武田教授
期間　九月一四日～一一月一二日
◦阿　風　中國社會科學院歴史研究所副研究員
中國明清時代における法律・裁判文書の研究
受入教員　岩井教授
期間　九月一五日～一二月一三日
◦趙　誠乙　亞州大學校人文大學史學專攻教授
戰後日本における韓國學研究と韓國學界の影響
受入教員　金教授
期間　九月一六日～二〇〇五年二月二八日
◦HUANG, Chi-chiang　Hobart & William Smith Colleges 教授
Pilgrims, Lay Buddhists, and Buddhist Identity in the Jiang-Zhe Region during the Yuan Dynasty
受入教員　ウイッテルン助教授
期間　九月二〇日～一二月一九日
◦陳　玉美　中央研究院歴史語言研究所副研究員
二〇世紀前半における臺灣考古學
受入教員　岡村助教授
期間　一〇月一五日～一二月一五日
◦LEDDEROSE, Lothar　ハイデルベルク大學東アジア美術史研究所 Chair
房山石經の研究
受入教員　田中淡教授
期間　一〇月一五日～一二月一九日
◦SALOVA, Dita　カレル大學第一醫學部醫史學部門講師
東アジアにおける醫學言説の歴史的研究
受入教員　武田教授
期間　一一月二〇日～二〇〇五年一一月一九日
◦YAMAMURA, Kozo　ワシントン大學國際關係學部名譽教授
國際比較經濟史分析のための言語問題の考察
受入教員　横山教授
期間　一一月二六日～二〇〇五年二月二八日
◦張　季琳　中央研究院中國文哲研究所助研究員
日本における中國古典文學の研究調査
受入教員　小南教授
期間　一二月一日～一二月三一日

外國人共同研究者

◦秦　小麗　陝西省考古研究所助理研究員
日中戰爭期の中國で發掘した考古史料の再檢討
受入教員　岡村助教授
期間　二〇〇三年四月一日～二〇〇五年三月三一日（繼續）
◦金　孝眞　ハーバード大學人類學科博士課程
「京都都心部における京町屋再生運動と地域アイデンティティの變化」に關わる研究
受入教員　髙木助教授
期間　二〇〇三年九月一二日～二〇〇五年八月三一日（繼續）
◦HENRY, Todd Andrew　カルフォルニア大學ロサンゼルス校歴史學研究科博士課程
植民地朝鮮の都市史についての研究
受入教員　水野教授
期間　四月一日～二〇〇五年三月三一日
◦梁　仁實
日本の視覺メディアにおける「朝鮮」表象
受入教員　水野教授
期間　四月一日～二〇〇五年三月三一日
◦FORTE, Erika Angela　ナポリ東洋大學考古學研究センター研究協力員
唐宋期龍門の中核寺院大奉先寺の研究
受入教員　曾布川教授

期間　一一月二七日～二〇〇五年一一月二六日

外國人研究生

◦LAPTEV, Sergey
漢字文化の擴大に關する考古學研究
受入教員　岡村助教授
期間　二〇〇三年一〇月一日～二〇〇五年三月三一日（繼續）

◦AMES, Christopher
沖縄のアメリカ村―グローバルな軍事戰略とローカルな經濟復興戰略の不安定な關係
受入教員　田中雅一教授
期間　二〇〇三年一〇月一日～一二月三一日（繼續）

◦朝　克图
ブフ（モンゴル相撲）文化に關する文化人類學的研究
受入教員　田中雅一教授
期間　二〇〇三年一〇月一日～九月二九日（繼續）

◦DE GANON, Pieter Sebastian
日本文化における肉食（一七五〇年―一九〇五年）
受入教員　高木助教授
期間　九月一日～二〇〇五年八月三一日

◦ODA, Ernani Shoiti
在日ブラジル人と他の移民・マイノリティとの關係に關する實證的研究
受入教員　竹澤助教授
期間　一〇月一日～二〇〇五年九月三〇日

出版物

紀要

人文學報　第八九號（紀要第一四六册）
二〇〇三年一二月三〇日刊

東方學報　第七六册（紀要第一四五册）
二〇〇四年三月一〇日刊

東洋學文獻類目　二〇〇一年度
二〇〇四年三月一八日刊

研究報告その他

中國近世社會の秩序形成　岩井　茂樹編
二〇〇四年三月一五日刊

漢字情報研究センター東方學資料叢刊第一二册　漢籍目錄を讀む　井波　陵一
二〇〇四年三月二〇日刊

所報「人文」第五一號
二〇〇四年六月三〇日刊